



消防大学校だより

危機管理・国民保護コースにおける実践的な教育訓練

消防大学校では、地方公共団体の危機管理・防災実務担当者、国民保護担当者に対する教育課程として、その業務に必要な行政動向等の知識及び能力を修得させることを目的に「危機管理・防災教育科 危機管理・国民保護コース」を実施しています。

平成31年度の危機管理・国民保護コース(平成31年4月17日～4月24日実施)においては、学生56名が6日間の全寮制の集合教育を受講し、全員が無事修了しました。

研修は、危機管理の専門家である講師の方々から、災害事例を交えた危機管理体制の考え方、初動体制、今後起こりうる問題などについて学び、実災害を想定した実践的な訓練も取り入れ、実践的な危機管理知識の修得に努めました。



指揮訓練

また、今年度は、本コースにおいて、受援体制の講義を新たに追加しました。大規模地震時に、他市からの受援を実際に経験された行政職員を講師として招き、発災後の初動体制や情報収集の難しさ、課題に対する改善策などについて、体験談を交えながら受援体制の重要性を学びました。後半は、大規模地震が発生した際の災害対応をゲーム形式で体験することができるクロスロードなど、判断力や対応力を養う訓練を実施しました。大規模地震時において、どこに重点を置いて災害対応を行うべ

きを学ぶ事により、危機管理業務に必要な知識及び能力の向上を図ることが出来ました。

課題研究では、入校前にあらかじめ示したテーマである「地方行政における危機管理」に関して、国内で開催が予定されている大規模な国際行事、また全国各地で頻発している自然災害等における対応などについて、学生それぞれが考えを持ち寄り、各班で活発な意見交換がなされました。最終日には、代表者が発表を行うことで、危機管理に対する様々な考え方を共有することが出来ました。



課題研究

研修を終えた学生からは、「危機管理、国民保護に関する理論や実務について、短い期間ながらも体系的な内容の講義を聴くことができ、今後の業務を行うに当たって非常に参考になった。」「危機に対する平常時の備えの重要性など、再確認する機会となった。」「課題等を共有する全国の仲間と交流を持つことができ、非常に有益であった。」等の意見が多く寄せられました。

今後は、消防大学校で修得した知識を活用し、各所属における危機管理体制の構築に大きな力を発揮するとともに、全国から集った学生56名のネットワークを活かし、それぞれの地域で住民の生命・身体・財産を守る活躍が期待されます。

自主防災組織育成コースにおける 実践的な教育訓練

消防大学校では、都道府県、市町村、消防職員で、自主防災組織のリーダーを指導する立場にある自主防災教育担当者等を対象とし、地域防災の問題点や課題について知識を広げ、研究するとともに、教育・指導技法を習得し、職員の資質を向上させることを目的に「危機管理・防災教育科 自主防災組織育成コース」を実施しています。

令和元年度の自主防災組織育成コース第15回に参加した、学生57名（令和元年5月27日～5月31日）が、消防大学校での5日間の全寮制の集合教育を終え、全員が無事修了しました。

研修では、消防庁幹部による防災行政の課題と対応に関する講義をはじめ、専門家による「大規模自然災害」に関する講義、女性や子供の視点での市民防災活動に関する講義、図上訓練（DIG）手法、災害シミュレーション等を受講し、自主防災組織の指導・育成に必要な知識及び能力の習得に努めました。

また、課題研究では、限られた時間の中ではありますが、各班ごとに日頃抱えている問題点の中から研究課題を決定し、その解決策を探るため、行政職員と消防職員が各々の視点から活発な意見交換を行い、各関係機関との連携の重要性を認識するとともに理解を深めました。

研修を終えた学生からは、「行政、消防職員と立場の違う職員の間で情報共有ができた」、「日本を取り巻く災害の現状について、認識を新たにするとともに、同じ目的で全国各地で奮闘している仲間と知り合うことが出来たことは、今後の業務に大いに助けになる」等の意見が多く寄せられました。

今後は、自主防災組織のリーダーを指導・育成していく上で、消防大学校で得た知識、技術を十分に活用し、それぞれの地域で活躍されることが期待されます。



朝の通常点呼



災害時要配慮者対策の実技



図上訓練（DIG）手法の習得訓練



受講者（57名）

問い合わせ先

消防大学校教務部
TEL: 0422-46-1712